

天声人語

派手な演出で知られる米国のプロレスに、ドナルド・トランプ氏が参戦したことがある。自分の代役のレスラーを送り込んで、会場で盛んに相手をおおつた。「観客が欲しいのは金だ」とまくして、客席にドル札をばらまいて、どうすれば人々を思うように動かせるか……心得ていたね」。彼の活躍ぶりを知るプロレス関係者の言葉が、ワシントン・ポスト取材班著『トランプ』にある▼暴言満載のショーのような選挙が終わった。「トランプ大統領」と口にしても、どうもしつくりこない。コメディ映画でもないし、一日警察署長のようなイベントでもない。「アメリカを一つに」との勝利宣言を信用していいのだろうか▼トランプ氏を押し上げたのは、IT化やグローバル化に置き去りにされた人ひとだという。彼らの不満と不安は現実だが、既成の政治家にすくい上げられるることはなかつた。やぶれかぶれでも、トランプ氏による「変化」に賭けたのだろう▼移民と貿易を制限すれば米国がかつての繁栄を取り戻せるかのような言中方をするが、夢物語にしか聞こえない。少数者への差別や排除があおられないか極めて心配である▼実業家時代のトランプ氏は、宣伝の仕上げには「はつたり」が欠かせないと自伝で書いている。「私はこれを眞実の誇張と呼ぶ。これは罪のないホラであり、きわめて効果的な伝方法である」。民主主義は完璧ではないことを教えてくれた選挙だった。